グリーン四国

四国森林管理局

四国山の日

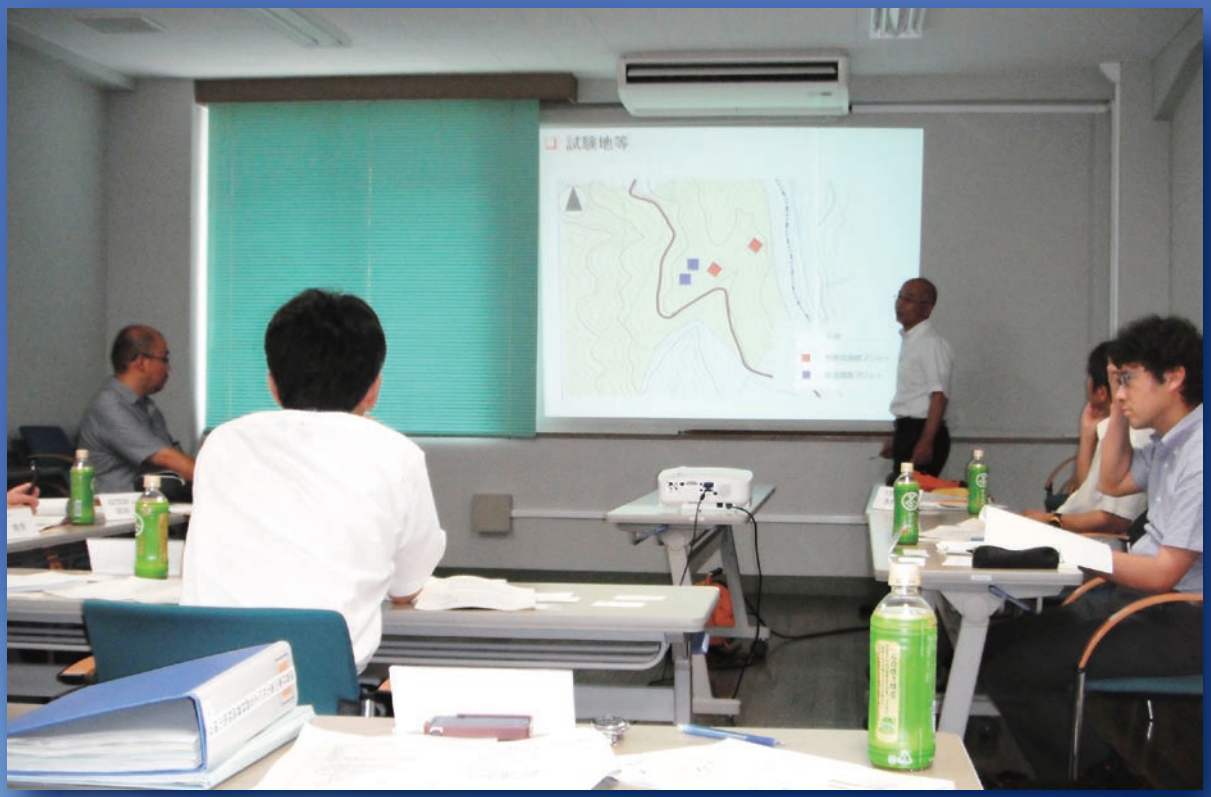
高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ088－821－2052
ＦＡＸ088－821－4834
ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

No.1120　2013年７月号

「第一回技術開発委員会」を開催

平成 25 年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

【詳細は２頁】



技術開発課題の説明

技術開発課題に貴重な意見

「平成二五年度第一回技術開発委員会」を開催

《森林技術・支援センター》

六月一四日、四国森林管理局において、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、技術開発の計画・評価・方法等について意見を聴くもので、森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の専門家の委員で構成されています。

平成25年度第１回技術開発委員会

今回は、平成二四年度に実施した四課題の調査結果等及び二五年度新規課題の「下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証」を加えた技術開発実施計画について審議を願い意見を伺いました。

委員からは

①「天然林におけるスギ天然更新技術の確立」では、稚樹の発生に関して、環境の異なる条件毎の更なる分析を行ってはどうか。

②「保育作業の省力化による森林育成技術の確立」では、除伐の省力化には大いに期待しており、様々な異なる試験を検討してはどうか。

③「ヒノキ天然更新地の更新技術の確立」では、天然更新は不確実性であるが、スギ・ヒノキは一手間かければ確実に育つだろう。

④「囲いわなによる効率的なシカ捕獲試験」では、シカ捕獲の拡大に向け、センター開発わなの更なる普及に期待している。

⑤「下刈省力化によるシカ食害低減効果の検証」では、シカ食害によるリスクの可能性はあるものの、あらゆる試験を試みることができるのは国有林であり期待している。

等各課題に対し多くの意見が出されました。

今回頂きましたこれらの貴重な意見等を踏まえて、今後の試験地設定のあり方など技術開発に活かして行くこととしています。

国有林野事業安全週間を終えて

《総務課》

国有林野事業安全週間中の取組みとして、局署等において職員参加による安全大会を開催するなど、職員一人一人の安全意識を高め、決意を新たに災害の未然防止を誓いました。

局においては、週間の初日に局長と業務管理官、三部長による安全旗の掲揚、週間中には各課輪番制による安全旗の掲揚を行い、安全意識の高揚に努めました。

また、七月一日の局の安全大会では、局長より災害の発生状況、労働災害防止の責務及び交通事故防止の取組等の訓示を受けるとともに、高知警察署形岡交通課長より、「交通事故の防止について」と題して講話が行われ、交通事故の発生状況や、自転車の交通ルールについて説明がありました。また、ヒューマンエラーについて、豪華客船「タイタニック号」の事故を例に挙げて説明があり

職員も熱心に聞き入っていました。

各署等においても工夫を凝らした行事を実施し、安全意識の高揚を図っているところですが、週間中に実施したことを単なる行事として捉えず、「安全第一」を共通の認識として今後の安全活動に取り組んでいただきたいと考えています。

高知警察署形岡課長（左側）飲酒状態を再現したゴーグルを付けた職員（右側）

平成二五度国有林野事業職員定期表彰式を六月一九日、局大会議室で行いました。

表彰式では、新木局長から受賞者の長年にわたる職務への努力と受賞者を支えてこられた家族の方への労いの言葉と『今年四月から一般会計移行し、今後は一層の公益重視の管理経営を行うとともに、民有林支援の強化を図ることとしていることから、皆様方が長年に亘り培われた豊富な見識と経験を今後とも活用していくことが必要であり、それぞれの職場において、開かれた「国民のための森林」に向け、また、民有林も含めた四国全体の森林・林業の活性化に向け、精一杯御尽力願いたい。』との式辞があり、受賞者一人一人に表彰状が手渡されました。

また、受賞者を代表して、総務企画部長の斎藤さんから、「適切で効率的な事業運営の確保を図る中で、新たな国有林野事業の姿を地域に示していくための取組を進め、自分自身に何ができるのかを問いただし、国民や地域の皆様の信頼を得つつ、更に努力を重ねて参りたいと考えております。」と答辞がありました。

永年勤続表彰受賞者

〇三〇年以上（二三名）

総務企画部長	技	斎藤　均
森林整備部長	技	鶴園重幸
総務企画部	技	榛田力男
	技	橋本　明
	事	山本由香
計画保全部	技	山口誠司
	技	松浦尚良
森林整備部	技	森野清繁
	技	藤原達博
徳島署	技	宮本　亨
愛媛署	技	松本誠也
	技	冨田忠男
	技	川村之二
四万十署	技	菅　康生
	技	金子　浩
高知中部署	技	宮本政澄
	技	宮永宏行
	技	原田康弘
	技	中村哲郎
安芸署	技	内田雅巳
	技	田上弘樹
	技	井　英三
森林技術員		小松郷史

〇二〇年以上（九名）

総務企画部	事	清岡聡子
森林整備部	技	古庄弘英
	技	中川往樹
	技	川崎幸子
	技	澤村昭文
四万十署	技	川渕貴夫
	技	中川正一
嶺北署	事	松本充弘
安芸署	技	岡　一志

職員定期表彰

各地のたより

「樹木学習及び間伐体験」〈ふれあい推進センター〉

五月二三日、高知県四万十町立北ノ川中学校の全校生徒二三名を対象に、北ノ川の学校林で樹木学習及び間伐体験を実施しました。同校では、毎年学校林で間伐体験を実施しています。今回は、専門的な技術を指導願いたいと依頼があり実施したものです。

間伐作業

最初に、学校林へ行く途中の民有林作業道周辺の樹木の学習を実施しました。

その後、学校林到着の後、学校林内の状況や間伐の意義及び山の保全等について説明し、次に間伐の順序、安全に関する注意事項を説明しながら、デモンストレーションとして間伐を実施しました。

いよいよ、生徒達の間伐の体験です。四班に分かれて、伐倒方向の確認をした後、受口、追口とノコギリを入れます。最初はノコギリがうまく使えず苦労していましたが、次第に馴れてくると上手に使えるようになりました。倒れきらない間伐木をロープを使って安全に倒すと歓声が上がっていました。

その後、間伐した木を利用してコースター作りに挑戦し、できたてのコースターの臭いを嗅いだり、友達と大きさを比べたりしていました。

「今日の、間伐体験は、大変だったけど楽しかった。作業道で木の説明をしていただいてとても勉強になりました。コースターも作らせてもらってうれしかったです。正しい間伐の仕方が理解できたし、森林のことも勉強できたので良かったです。」等の感想がありました。

生徒達にとって、間伐を体験することにより、地域の産業としての林業や、間伐の大切さ等を理解し、森林環境についての意識が高まった一日になったことと思います。

滑床（なめとこ）渓谷は自然の大遊園地〈ふれあい推進センター〉

五月三一日、足摺宇和海国立公園内にある滑床渓谷で、愛媛県松野町立松野東小学校全校児童が「森とも登山」を行いました。

本校は、愛媛県教育委員会の「森はともだち推進事業」の指定校として、平成二三、二四年度森林学習に力を注いでいましたが、今後も引き続き森林にふれあっていきたいという嬉しい言葉をいただき、今回の森林教室となりました。

まず、午前中は、万年荘から千畳敷まで約二キロを往復しました。往路では、渓谷沿いの歩道を散策しながら、「森林のはたらき」や、この不思議な渓谷の「おいたち」「植生」などを勉強し、復路は林道を歩きながらオリジナル絵葉書用の珍しい葉っぱや花を集めました。

歩道には、険しい個所もありますが児童は、食虫植物や大きな木に驚きながら元気いっぱい力強く進んでいました。

三時間の登山も終盤に差し掛かると空腹との戦いになり、漏れる言葉は数分おきに「後何分で着く？」。

待ちに待ったお弁当で栄

養補給を終えると、たちまち元気が回復し、少々お疲れ気味の大人を横目に、午後の活動でもパワー全開でフィールドを駆け回っていました。

午後からは三班に分かれ、木工教室、ネイチャーゲーム、ツリーイング（フォレストキャニオン担当）を体験しました。木工教室では好評の「クマのストラップ」を制作し、ネイチャーゲームでは「カモフラージュ」と「フィールドビンゴ」で大苦戦。

渓谷沿いの散策

普段学校ではできない森林での活動を満喫してもらえたらしく、後日届いたお礼の手紙には楽しい思い出が活き活きとつづられていました。

「二校で校庭の樹木学習」

〈ふれあい推進センター〉

六月三日、四万十市立蕨岡（わらびおか）小学校の三、四年生九名及び、六月五日、宿毛市立小筑紫（こづくし）小学校の五年生一二名を対象に校庭の樹木を学習し、樹名板を取り付けたいとの要請を受けて指導にあたりました。

今回の学習は、身近にある校庭の樹木に興味を持ち、その自然のすばらしや大切さを守り育てる意識を育成する目的で実施しました。

最初に樹木の話を行い、針葉樹と広葉樹の違い、単葉と複葉の違い等について説明しました。

蕨岡小学校・校庭の樹木学習

次に、校庭の樹木学習では、樹木名と特徴、用途等について説明しました。両校とも「イチョウの仲間は、中生代のジュラ紀に繁栄したが、ほとんどが、中生代の終わり頃恐竜とともに絶滅し、イチョウ一種のみが生き残ったといわれている。」と説明すると、皆一様に驚きの声を上げていました。

その後、ヒノキの輪切り材に、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描いて樹名板を完成させました。そして、一人ずつ、自分が担当した樹木に取り付けていきました。なお、小筑紫小学校については、次回の森林教室の時に取り付ける予定です。

今回の学習を通して、樹木について、少しでも興味を持ってもらえる入り口になれば、と考えています。

小筑紫小学校・校庭の樹木学習

森林や樹木の学習

〈ふれあい推進センター〉

愛媛県松野町立松野西小学校の四年生は、毎年度「総合的な学習の時間」を利用して森林や樹木の学習をしています。

今年度も二五名の生徒を対象に六月四日と二〇日に「校庭の樹木」「空飛ぶ種子」

を行いました。

「校庭の樹木」では、まず、教室で広葉樹と針葉樹の違いや単葉と複葉の特徴、葉のつき方など基礎知識を学び、その後、校庭に出て、学校に植えられている約四〇種類の樹木について、葉や花を見たり葉に触れたりして、それぞれの樹木の名前や特徴を学習しました。

校庭の樹木学習

後日、自分たちで作った樹木名板を取り付けました。

また、「空飛ぶ種子」では、樹木や草花が様々な方法で種子を散布することを学習し、実際にマツやカエデの種子が風を受けてくるくる回って飛ぶ様子を観察しました。

その後、「アルソミトラ」や「マツ」、「ニワウルシ」「ラワン」の種子の模型を色紙やスチレンシートを使って作りました。体育館ではスチレンシートで作ったラワンの種子模型を輪ゴムで飛ばし、くるくると回りながら落ちてくる様子に「おもしろい」などと歓声を上げ、何度も飛ばしていました。

今後、七月に「木工クラフト」二学期には、「八面山登山」「森林の土壌と生物」「炭」について学習する予定です。

さまざまな学習を通して森林や自然、林業などについての興味や理解が深まることを期待しています。

完成した樹木名板

森林教室「木工クラフト」を実施〈徳島森林管理署〉

六月一八日、徳島県小松島市の横須保育所で五歳児二二名を対象とした森林教室「木工クラフト」を行いました。子供たちが作成したのは、①間伐材を使用した写真立てと②カシやサクラ材、ドングリを使用したクマやカブトムシなどの動物マスコットの飾りです。

動物のマスコット完成しました
みんな力作です

子供たちは今回の森林教室を楽しみにしてくれていたようで、私たちが道具や材料を準備している時から、見本用のマスコットやドングリなどの材料に興味津々の様子でした。そして、いざ開始となると一斉にマスコットの材料を入れた箱に群がり、思い思いにマスコットの材料を手に取っていました。子供たちは一個目のマスコットを作るのには苦労していましたが、その後は要領をつかんだようで、追加のマスコットを作ったり、枝を組み合わせて恐竜を作ったりと、それぞれが工夫しながら楽しそうにクラフトに取り組んでいました。

できあがった作品は、マスコットがぎっしり飾られたり、まるで写真を鑑賞しているかのような向きで置かれたりと、それぞれの個性が反映されて独創的なものや発想豊かなものなど、見事な出来映えでした。

子供たちは皆、自分の作品に大満足の様子で、「明日もきてね」とか「次はネコが作りたい」など、とても喜んでもらえたようでした。

近頃は木に触れる機会はとても少なくなりましたが、木を身近に感じ、生活の中に取り入れてもらえるよう、木に直に触れ、ぬくもりを感じられる木工クラフトがそのきっかけになればと考えており、今後も引き続いてこのような森林教室を実施する予定です。

写真立て作成にみんな夢中です

「はた博」プレイベントで木工教室

〈四万十森林管理署〉

六月二九日、三〇日、四万十川にかかる通称「赤鉄橋」河川敷において、高知・西南地域観光キャンペーン「楽しまんと！はた博」のプレイベントが開催され、四万十森林管理署が参加しました。三〇日の「RKC子育て応援団すこやか2013inはた」の事務局から、「日頃自然にふれることの少ない子供たちに、幡多地域に広がる国有林を管轄している四万十森林管理署による、森林の働きや自然の大切さ、木の温かみ等を体感させるワークショップを企画してもらいたい」という協力要請があり、当署からは五名が参加し親子木工教室を開催しました。

当日は梅雨の真っ盛りであいにくの雨天となりましたが、会場には幡多地域の物産をそろえた約二〇の出店が並び、チャイルドボディセラピストの蛯原英里さんの親子のふれあいトークライブや、アンパンマンショー、ご当地アイドルグループのライブなど多彩な催しが行なわれ、約三〇〇人の人が四万十川河川敷に繰り出し、たくさんの親子連れでにぎわいました。

木工教室の開催にあたり、ブーステント内に国有林の役割や森林の働き、木の生態など森林環境に係わるパネルを展示し、「木のメダルをつくろう」をテーマに、キーホルダーやストラップなどを制作しました。

幼児から小学生までの子どもたちがひっきりなしに集まり、あらかじめ輪切りにしていたヒメシャラやエンジュなどを材料に、子ども達の自由なアイデアによって、メダルやキーホルダーやネックレスを個性豊かにデコレーションしながら夢中になって制作し、創造性豊かな木工作品がたくさん出来上がりました。子どもたちは趣向を凝らした作品を制作するなかで、木に触れることにより、木の持つ暖かさや柔らかさ、物づくりの楽しさやおもしろさ、香りや手ざわりなどを感じることができたようです。

今回参加してくれた子ども達が、自然に対してやわらかな感性を持ちながらすこやかに成長し、大きくなったときに、少しでも森林や林業に目を向けてくれる良き理解者であり協力者となってくれることを心待ちにしています。

手作りの木のメダルにご満悦